

ホーム名： グループホーム しおかぜ						
自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を額に入れGH内の見やすいところに掲げています。また職員一人ひとりに理念を配布説明し理念の実践に向けて取り組んでいます。	理念はフロア入り口より入った正面壁に掲示されている。9つの理念から成り、前回評価時に、「短い言葉で」と指摘を受けていたが、至っていない。書道をされていた入居者に1項目づつ書いてもらい、「毎月替えてみて」と、管理者は考えている。	管理者も感じているように、理念としては項目が多く、長い文面もある。日頃大切に思っている事や目指す事、大事にしている事などを、誰にもわかる易しい言葉で提示したい。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の商店会に加入。総会などにも出席し関係を築いています。隣近所の住民の方々も気軽に挨拶などして下さる関係づくりを行っています。	地域商店会の会合へは、常勤職員が参加。食材の買出しや買い物も、入居者と共に毎日商店街で購入している。傾聴ボランティアも月2回来訪下さる。	地域の夏祭りでは入居者の為に席を用意して下さり、買い物や散歩などを通して日常的に交流している様子が伺える。今後も地域の一員として、行事への参加や事業所の開放などを行ない、交流に努められたい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座など行っています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様や他の地域から来られる委員の方々の意見を出来る限り反映できるように努めています。	昨年は3回の会議を持ち、町会長・港区地域包括支援センター職員・入居者家族の参加を得た。家族からは意見や要望なども活発に寄せられている。参加出来なかった家族や職員へも、会議の報告がなされている。	運営推進会議への出席者が固定化されぬ様、民生委員や婦人会、老人会など幅広い参加を呼びかけられたい。次回の会議では、今回の外部評価についても議題の1つとして取り上げて欲しい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	年一度、運営推進会議の開催状況と討議内容の報告書を発信。	現在、市・区の担当者とは特にやり取りはしていない。地域包括支援センターには運営推進会議の予告連絡を行ない、出席頂いている。	実際にホームに足を運んで頂く事で、実情や日頃のケアの様子を見て頂く事が出来る。運営推進会議には是非足を運んで頂き、連携を深めて行って欲しい。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	たとえ入居者さん自身の行動で危険が及ぶ恐れがあっても、常に見守りや介助の配慮を忘れず、事故発生の予防を心掛け、拘束することなく過ごしていただいている。	マニュアルや研修で理解に努めている。日中、ホームの出入り口やエレベーターは常に開放して、自由に行き来できている。夜間は1階玄関口を施錠している。	身体拘束する事なく、見守りながら日中を過ごしている。施錠する事のいけない理解を、職員に再認識させたい。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加。参加者より各職員へ周知。虐待には常に注意を払い予防から意識して行っている。			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人制度を利用している入居者現在おられ、職員としても権利擁護の意識を持って日々のケアに生かせるように取り組んでいます。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>出来るだけ丁寧に説明を行いご理解いただけるように話し合いを重ねています。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>施設内に意見箱を設置し、毎月事業所向上委員会にて頂いた意見・苦情等に関して討議行って改善できることには迅速に対応できるように努めています。</p>	<p>1階エレベーター脇に、ディサービスとの共用意見箱として「虹の箱」が設置されている。グループホームに対しての投函は今のところ無い。家族からは来訪時や運営推進会議時に直接聞く機会となっている。</p>	<p>職員に寄せられた家族からの意見や要望が、たとえ小さな事であっても必ず記録し、その後の対応や結果も記録に残したい。「虹の箱」の横に、公共の苦情受付の連絡先も明記されたい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月スタッフ会議・年2回職員総会を行っており、その都度意見交換を行っている。</p>	<p>会議などの中で意見交換したり、普段のやり取りの中から聞く機会としている。 ・薬の管理→二重チェックにする ・車椅子の利用は入居者にとってどうなのか？ など、話し合いを持った。</p>	<p>管理者は、職員が意見や提案を出し易い雰囲気作りに心掛けている。今後も、より居心地の良いホームとなるよう、職員からの意見や要望を汲み取る努力をお願いしたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>必要に応じて調整している</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の研修・GHネットワークなどの外部研修を通して育成に努めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>大阪市GHネットワーク、港区内のGHとの連携を行っている。</p>		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>回数を重ね詳細に丁寧話し合いを行っている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>回数を重ね詳細に丁寧話し合いを行っている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>当事業所内にある他の事業所とも協力し、受診・リハビリ・往診など必要なサービス提供に努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員はあくまで支援の視点であり、一方的なケアの押し付けにならないように注意して、入居者本人が主体的に意見できたり行動できる場面を生活の中で多く持っていただけるようになっています。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族にも出来る限り訪問していただけるように日頃から声かけを行っています。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>近所の商店街には、ほぼ毎日買い物に出ており、入居者自身も馴染みのある方々と会う機会を無くさないように支援に努めています。</p>	<p>午前・午後、食材購入の為に毎日商店街まで買い物に出掛けている。行きつけの美容院へも、家族の協力を得ながら行っている。</p>	<p>今後も、商店街へのお出かけや美容院の利用など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援をお願いしたい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>自室に籠りきらないようにリビングなどに来ていただき、自然に輪が出来るような環境づくりに配慮しています。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス利用が終了したご家族様もご連絡をしたり、定期的にGHへ気軽に来て頂いています。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望・意向についてはいつでもお聞きできるように努めています。	職員からの問いかけに、“はい”、“いいえ”での返事が多いが、“本人の口から希望が出た時には叶えてあげたい”と管理者は思っている。言葉や態度から希望や意向を汲み取るよう努力している。	職員は常日頃から入居者の様子・態度や言葉に気を配り、“気づき”に心しながら支援を行ってほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	本人・家族から日々情報を得られるように日誌など記録・会議にてスタッフ間で統一に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが自由に過ごしていただけるように、意向を尊重しスタッフ間の申し送りも詳細にしています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員・関係者と話し合い、それぞれ意見やアイデアを出し、より良い介護計画が作成できるように努めています。	介護計画の見直し期間は6ヶ月としている。高齢の入居者が殆どで、現状維持が目標となっている。普段から情報収集に心掛け、主治医・家族・職員・関係者それぞれがアイデアを出し合い、介護計画の作成に努めている。	今後も、主治医を始めチームを組んでの、現状に即した介護計画の作成に努められたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員が記録の記入を行っている、申し送りノートなどでも情報の共有が行えるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同施設内のデイサービスにも参加したり、他の事業所とも常に連携を図って柔軟な支援が行える環境づくりをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出や行事などのボランティアさん、消防士による防災避難訓練など協力を仰ぎながら支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の医師が定期的に往診行っておりかかりつけ医として機能しており適切な医療の提供も行っている。	みなと生協診療所の医師が隔週火曜日に定期的に往診がある。また週1回の訪看により、医療面においては安心である。歯科においても、通院困難時や緊急時にも往診が可能である。	主体が港医療生活共同組合であり、定期外の往診にも対処してくれ安心である。高齢の入居者が多い事から、常に様子に気を配り、適切な医療支援を行って頂きたい。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問看護ステーションとも契約行っており、定期的な健康チェックを依頼しており、入居者の日々の状態をしっかりと把握しています。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院中は病院関係者と連絡を取り、現在の状況の把握、必要事項においての情報交換を行っており早期退院に向けた協働を行っています。</p>		
33 12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時から終末期の際の対応など家族と相談しています。かかりつけ医とも密に連携をとっており情報方針の共有に努めています。</p>	<p>過去ホームにて看取りを経験している。重要事項説明書に、看取りに対する方針も記載されている。看取りに関して書面には残しているが、「同意書」は現在作成段階。</p>	<p>過去のホームでの看取りは、医師への連絡や職員の対応などに於いて難しかったとの事である。今後のホームでの看取りの時の為にも、前回の経験を活かし支援のあり方や心のケアなどについても話し合っておかれたら良いと思う。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>グループホーム会議の際に事故発生時の対応について確認したり、電話の側に緊急連絡先やスタッフ連絡網の掲示をしている。</p>		
35 13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>グループホーム会議の際に事故発生時の対応について確認したり、電話の側に緊急連絡先やスタッフ連絡網の掲示をしている。また、ご近所に地域理事がおり、緊急時の応援をお願いしている。</p>	<p>年2回、内1回は消防との協働で訓練を行っている。夜間は夜勤専門の職員が2人おり、夜間を想定した訓練も行っている。消防より、災害時には1番奥のベランダに非難し待機するよう指示を受けている。広域避難場所は八幡屋小学校となっている。災害備蓄品に関しては未整備。</p>	<p>災害時の役割分担が決められているが、いざという時に慌てる事が無いよう常日頃から意識しておきたい。また、分担や手順なども再確認しておきたい。災害備蓄品についても、多少の食料品・飲料水などはホームに備蓄しておくことである。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>入居者の方々は常に人生の大先輩であることを念頭において声かけや対応に配慮。記録も本人・家族が閲覧できるようにしている。</p>	<p>プライバシーに関しての特別な研修はしていないが、言葉かけや接する態度に気を付けながら支援している。</p>	<p>今後も、入居者が人生の大先輩であるという事を念頭におき、人格を尊重した対応に心掛けて欲しい。トイレ誘導時や入浴支援時などには、特にお願いしたい。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>したいこと、食べたいもの、好きなもの色々と伺いながら一人ひとりに合わせた支援が行えるように努めている。知り得た情報の共有にも配慮。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大まかな一日の流れはあるが、できる限りゆったりと一人ひとりのペースで過ごしていただくように努めています。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>衣類もスタッフと一緒に買いに行ってます。嬉しそうにご自身の趣味のものを選んで購入していただいています。理美容も本人の行きつけの場所へご家族様の協力も受けながら行っていただ</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>メニュー決めから何を食べたいかお聞きし、一緒に買い物へ行き調理・盛り付け、配膳など一緒にを行っています。調理中も様々に会話しながら楽しく食事がつくりが行えています。</p>	<p>職員も一緒に食卓に着き、`いただきます`と手を合わせてから同じ物を食し、`ごちそうさまでした`と手を合わせる食事風景である。まな板や布巾の消毒は毎日行っている。皮むきや切る・混ぜるなど出来る事は手伝ってもらっている。</p>	<p>食事の始めと終わりの挨拶は、家庭的なほほえましい食事風景である。栄養面に於いては、区の管理栄養士に目を通してもらえば助言も得られ安心である。高齢化に伴い今後は食事の提供形態にも変化が出てくると思われるが、情報を入手し各々に合った支援の提供をして行って頂きたい。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>日々変わる個人の体調に合わせて、食事作りの際に調整している。水分摂取もこまめに声掛けを実施。申し送りにより、その事柄を他スタッフへと伝達する。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後の後のうがいの促しと、就寝時は必ず義歯の洗浄うがいを実施。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表にて、各入居者の排泄パターンを把握して、早めにトイレ誘導を行い、できるだけ失敗のないように努めています。</p>	<p>一人ひとりの排泄リズムを把握している。排泄はトイレできるように早めに誘導を行い、出来るだけ失敗の無いように支援している。入居者の状態に合わせてリハパンやパットの使い分けが出来ている。</p>	<p>今後も、尊厳を傷つける事の無いようプライバシーに配慮しながら排泄の支援をお願いしたい。また、自力でのトイレでの排泄がなるべく長く続くよう、現在の足腰の鍛錬や手を使っての歩行も、見守り支援で続けていって欲しい。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>上記のチェック表にて、便の状況を確認し、野菜や水分の摂取を心掛け、往診や訪問看護の際にも相談している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴時間・日などは決めておらずいつでも入りたい時に入れるようにしています。(夜間のスタッフが少ない時以外で)</p>	<p>入浴は毎日を基本としている。大体は、1時過ぎから夕食の準備前(4時半位)までに入浴。菖蒲湯やゆず湯など、季節の楽しみも取り入れている。浴槽洗浄や湯換えは、職員の数や時間の関係で、毎回オーバーフローさせている。</p>	<p>管理者は毎日の入浴を`大切にしたい事の1つ`と位置付けている。その気持ちで、今後も入居者の楽しみな時間となる様、各自の入浴の仕方を尊重しながら支援を続けていって欲しい。</p>

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>リビングのソファや食堂、自室など思い思いの場所で休息されています。出来る限り本人の行動にあわせています。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>お薬ファイルを作成し、スタッフがいつでも確認できる場所に保管。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>散歩・買い物・調理・花など好きなもの好きな事は皆さんそれぞれ。その人の嗜好・意欲に合わせて支援を行っている。</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>昼・夕食の買出しや個人の必要物品の買物・散歩・洗濯干しなど、様々な場面で外出の機会と捉えて支援を行っている。</p>	<p>毎日1対1での午前・午後の買い物などで、外出の機会を作っている。春の花見や秋の菊見・紅葉狩りなど季節の楽しみも行っている。11月に、リハビリ温泉施設に1泊で行ってみたいと考えているとの事。</p>	<p>毎日の外出は、五感刺激や足腰の鍛錬になる。今後も是非継続して行って欲しい。リハビリ温泉施設への旅行も、実現できるよう応援している。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自身でお財布を管理している人が1名。その他は事業所での預かりだが、その人の買いたいものか際などは支払い・受け取りなど状況に合わせて行っていただけるように支援。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙などは今現在はやり取りされている方がおられない。電話に関しては使いやすい場所に設置して要望があれば電話していただけるようにしています。</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>あまり大掛かりな家具移動等はせず、慣れた環境、慣れた座る位置を維持し、家族さんが持って来ていただける季節の植物等を飾り付けし、季節感を演出している。</p>	<p>見易い時計や大きな日めくりカレンダーが掲げられ、季節感のある飾り付けで親しみやすいリビングに、自然と集まる雰囲気である。前回指摘された沈み込むソファは、片付けられている。</p>	<p>共用空間は、入居者がくつろぎ易く家庭的な安心感が得られる様な物の配置になっていると感じた。今後も家庭的な雰囲気や生活感を出しながら、毎日を送って頂きたい。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂やリビングで過ごせたり、ソファなどでゆっくり過ごしたりお好きなどころに思い思いにいていただけるようにしている。</p>		
54 20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>お部屋のものは全てご自身の私物を持ってきていただいています。</p>	<p>各居室は、それぞれ入居者の馴染みの品を持ち込み、その人らしい部屋となっている。掃除も朝の買い物の前に職員が行っている。</p>	<p>時計やカレンダーの無い居室も見受けられた。入居者や家族と相談しながら、又、職員も手伝いながら見易い物を整えてあげたい。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>歩行時、手すり・イスなどを利用しながらなるべく一人で歩ける環境作りをしています。出来ること・出来ないことの把握を各スタッフがいき、本人の出来ることまで手を出してしまわないように注意しています。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ _____ _____ _____	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ _____ _____ _____	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ _____ _____ _____	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない